

1 研究の趣旨

中央教育審議会答申（平成28年12月）では、「中・高等学校においては、〔中略〕外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていない」ことが指摘されている。このことから、生徒が授業で英語を使う機会を増やし、英語で自分の考えを発信する力を伸ばすための効果的な指導法の研究が必要だと考える。第二言語習得の先行研究においては、アウトプット（「話す」、「書く」）により生じる学習者自身及び他者からのフィードバックが、学習者の語彙、文法や語法の問題に対する気付きを促し、第二言語の発達を促進する効果があることが実証的に示されている（Swain & Lapkin 1995）。本研究では、エッセイ・ライティング指導において、文法や語法の正確性だけでなく、論理性の面にも焦点を当て、生徒相互によるフィードバックや話し合い、教員による直接、間接的なフィードバックを併用する。これにより、生徒の「気付き」が促され、生徒が書く英文の論理性と正確性が向上するかを研究することとする。

2 研究の概要

(1) 【手だて1】エッセイの特徴に気付かせる英文の分析（論理性を高める手だて）

○ 生徒のエッセイに共通する課題を含む英文と模範解答を作成し、生徒相互に分析させる。

(2) 【手だて2】採点者の視点をもたせる生徒相互の評価（論理性を高める手だて）

○ 互いのエッセイを読み合い、評価規準に基づいて評価し合う。

(3) 【手だて3】生徒の実態とニーズに応じた教員の添削（正確性を高める手だて）

○ 生徒の実態とニーズに応じて、次の3つの方法で添削する。

- ① 誤りを直接訂正する方法（直接的な訂正）
- ② 誤りに気付かせるヒントを与える方法（間接的な訂正）
- ③ 生徒が添削を望む箇所に焦点を当てる方法（直接・間接的な訂正）

(4) 【手だて4】論拠の明確化を目指す生徒相互の検討（論理性を高める手だて）

○ ワークシート（図1）を使い、提示された主張と結論に合う理由と具体例を検討させる。

図1 ワークシート

(5) 【手だて5】学びをつなぐ書き直しの時間の設定（正確性を高める手だて）

○ 前時までの学習内容や添削内容を振り返り、エッセイを書き直す時間を設定する。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

検証結果（図2）から、論理性に関しては大きな伸びが見られた。正確性に関しても、ゆるやかではあるが着実な向上が見られた。総語数の増加からは、生徒の学習意欲を高めることにも一定の効果があったと考える。

	論理性 (0-9)			正確性 (0-1)			総語数 (補足)		
	事前	中間	事後	事前	中間	事後	事前	中間	事後
テスト									
平均値	4.35	5.02	6.52	0.42	0.52	0.56	78.1	78.5	104.8
最高値	6.25	6.50	8.75	0.73	0.93	0.83	98	101	129
最低値	2.75	3.50	4.00	0	0.27	0.25	41	35	85
標準偏差	1.17	0.83	1.26	0.23	0.21	0.18	16.0	16.6	15.2
有意差 ($p < .01$)	有 ($t = -3.32$)			無			無		
	有 ($t = -7.03$)			無			有 ($t = -6.12$)		
	有 ($t = -5.43$)			有 ($t = -4.53$)			有 ($t = -5.46$)		

図2 検証結果

(2) 今後の課題

生徒は、日本語では様々な考えをもっているのに、書く英文の内容が稚拙になってしまう。そこで、本研究での成果を生かし、長期的な見通しをもって生徒の学びを積み上げていき、内容の質を高めながら英語で書く力を伸ばしていく指導法の研究が、今後の課題である。